

平成31年3月期第1四半期 連結決算説明資料



2018年8月7日
証券コード 2813



1. 平成31年3月期第1四半期連結決算概要
2. 平成31年3月期 業績予想
3. 第1四半期 トピックス（参考）

1. 平成31年3月期第1四半期連結決算概要
2. 平成31年3月期 業績予想
3. 第1四半期 トピックス（参考）

※ 業績数値に係る在外子会社（WAKOU USA INC.）の換算レートは1ドル＝109.096円で計算しております。

市場環境

単身世帯の増加
女性の社会進出
少子高齢化

人手不足

健康志向
安全・安心

訪日外国人増加
インバウンド

ビジネスチャンス

中食の拡大
食の外部化

調理の簡便化

食の多様化
高付加価値

日本食・和食の
拡大・定着

(単位：千円)	平成30年3月期第1Q	平成31年3月期第1Q					
	実績	予想	実績	前年同期増減比較		予想同期増減比較	
				金額	増減率	金額	増減率
売上高	2,106,787	2,209,880	2,352,858	246,070	11.7%	142,977	6.5%
売上原価	1,621,057	1,806,463	1,800,768	179,710	11.1%	△5,694	△0.3%
売上総利益	485,730	403,417	552,089	66,359	13.7%	148,672	36.9%
販売管理費	453,377	465,005	540,579	87,201	19.2%	75,573	16.3%
営業利益	32,352	△61,587	11,510	△20,842	△64.4%	73,098	—
経常利益	31,740	△57,387	33,858	2,118	6.7%	91,246	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△2,810	△57,409	6,952	9,762	—	64,361	—
EPS	△3.43円	—	8.49円	11.92円	—	—	—
総資産	6,943,393	—	7,580,453	637,060	9.2%	—	—
純資産	4,002,721	—	3,940,278	△62,443	△1.6%	—	—

※ EPSについては株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。

予想進捗率

売上高

24.4%

営業利益

13.3%

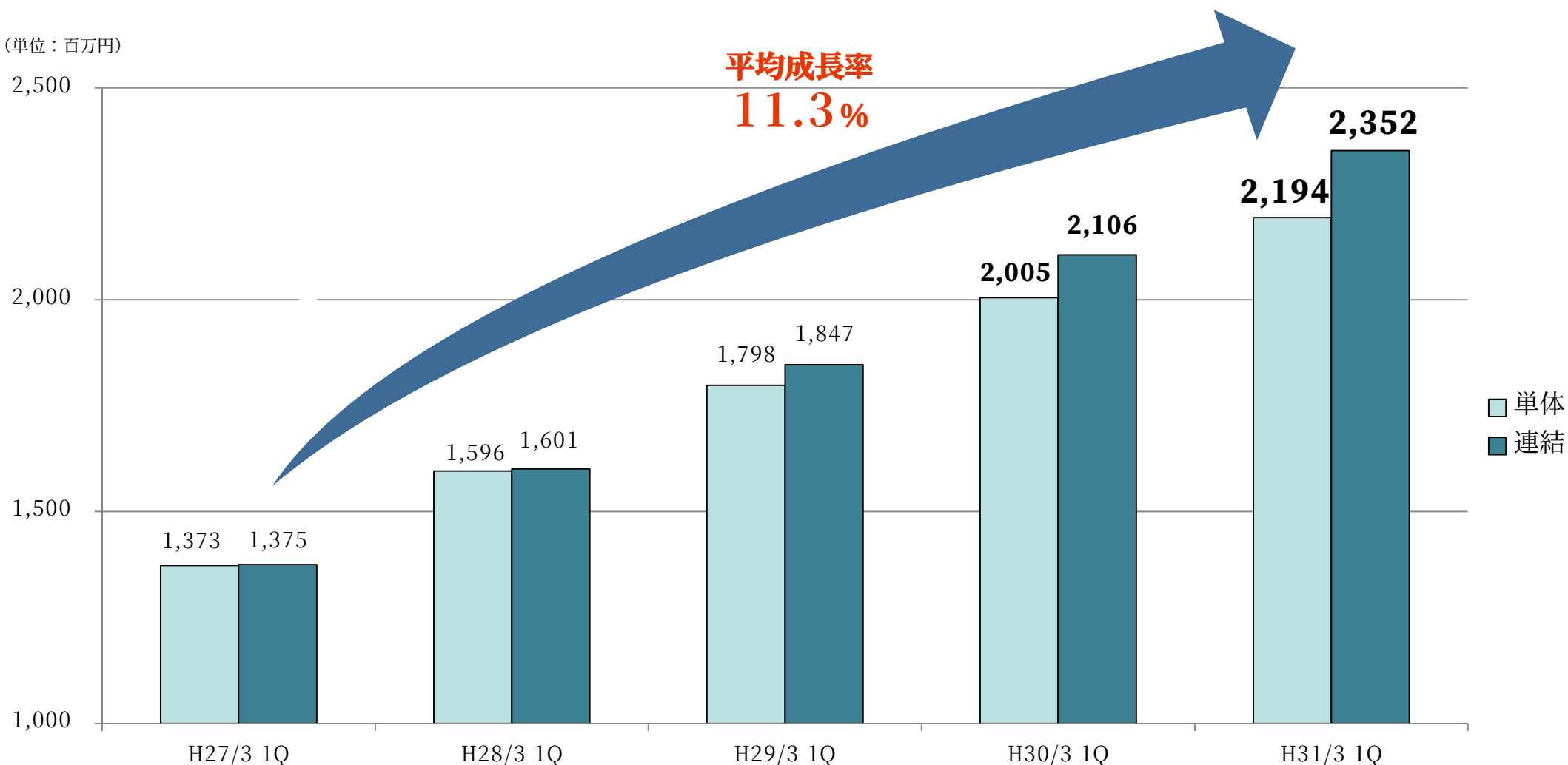


【好調理由】

- ① 外食・中食向け業務用調味料市場の開拓が進む
- ② 原価低減に関するプロジェクトにより売上総利益率は改善へ向け前進

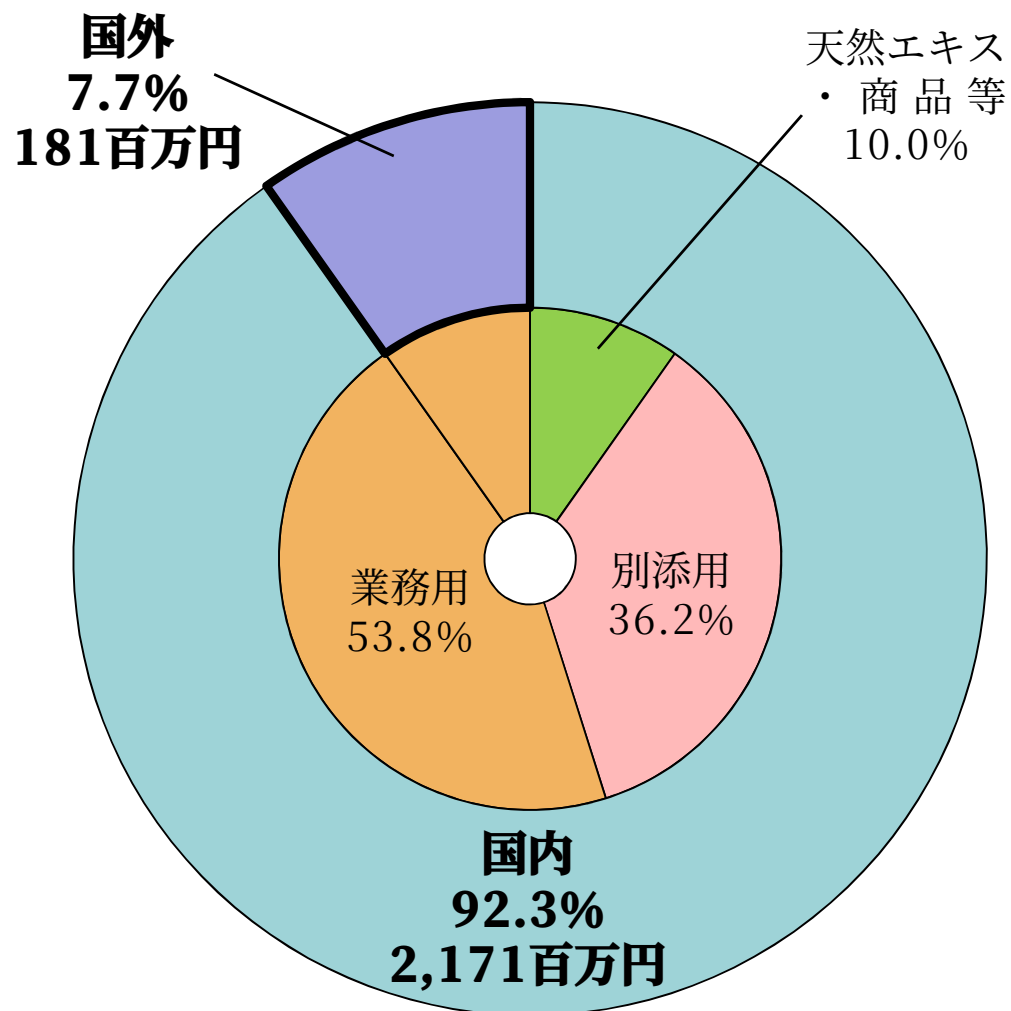
■ プレゼンルームを活用した提案型営業の強化により前年比較 246百万円増（11.7%増）

（単位：百万円）



※ 平成28年3月期 第2四半期より米国子会社WAKOU USA INC.が稼働しております。

■ 連結売上高は別添用・業務用製品が牽引（前年同期比：別添用5.3%増、業務用15.6%増）



別添用



主に内食業界向け（袋めん付属スープ等）、中食業界向け（コンビニエンスストア向け調理麺付属スープ・めんつゆ等）で使用される形態です。また、近年では大手外食チェーンの調理オペレーション効率化に伴い、小袋形態での受注が増加傾向にあります。
本格的な専門店の味をご家庭にお届けすることをモットーに味作りをしています。

業務用



主に中食業界向け（スーパーマーケットの惣菜バックヤード等）、外食業界向け（ラーメン店、レストラン、居酒屋等）で業務用として使用される形態です。
本格的な専門店の味の再現や仕込み作業軽減等、数多くの企業・繁盛店様のご要望やニーズに沿った製品作りを心掛けております。

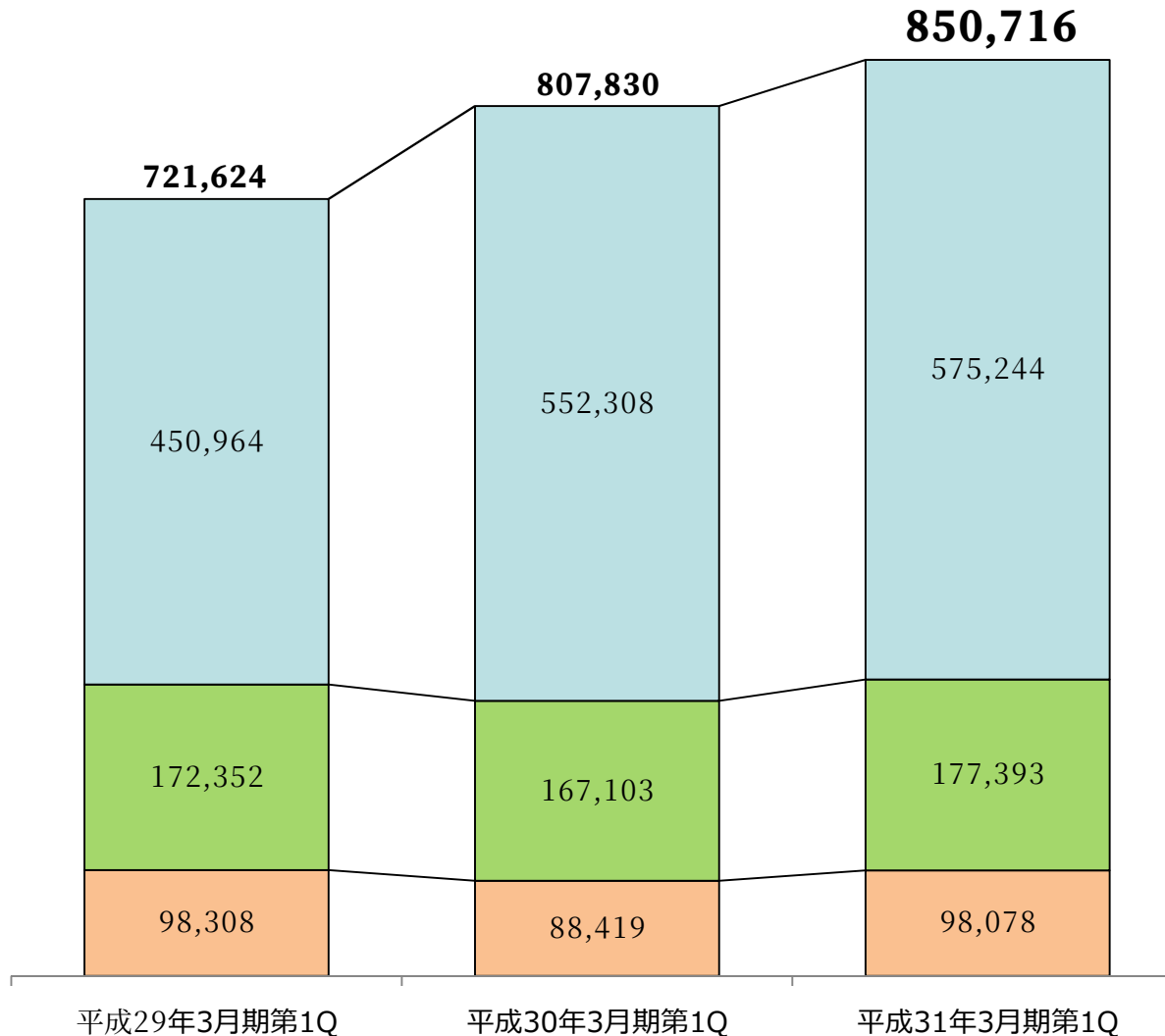
天然エキス・商品等



北海道の新鮮素材を独自の製造技術により精製した天然エキスは、原料として数多くの製品に取り入れられている他、外販もしております。
また、商品（転売品）等もこの項目に含めて表示しております。

別添用製品の売上高状況

(単位：千円)



別添用ラーメン 増減要因

【外食用 ↗】

- ・ 魚介系ラーメンスープ（あさり、しじみ）、梅冷しラーメンのタレ

【内食用 ↗】

- ・ チルド冷麺スープ、量販店向け冷凍麺用スープ（担々麺、あんかけラーメン等）

別添用その他 増減要因

【中食用 ↗】

- ・ 卵スープ、うどんつゆ、素麺つゆ

【内食用 ↗】

- ・ タッカルビの素、タコライスの素、かに飯のたれ

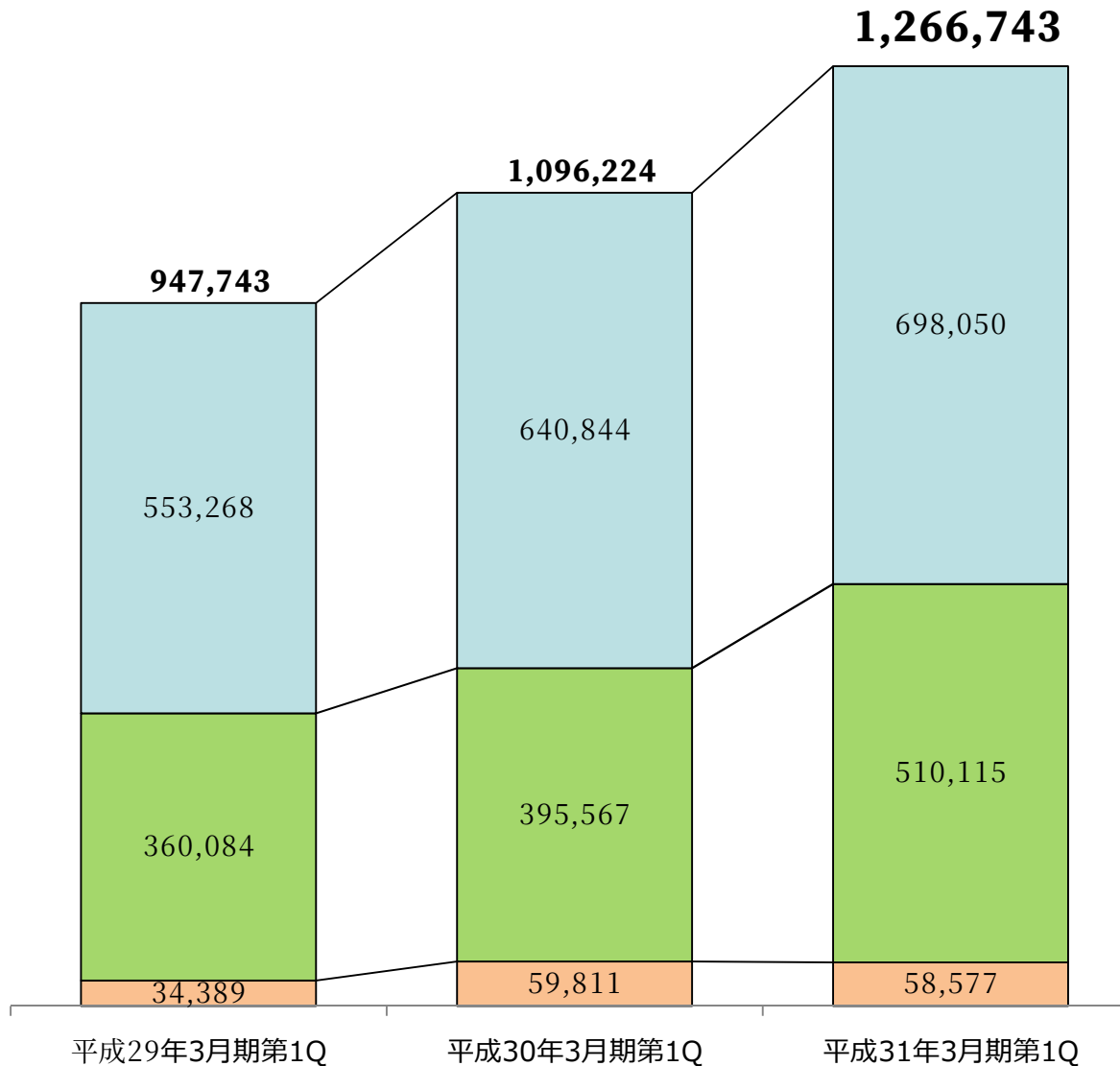
別添用冷し中華 増減要因

【内食用 ↗】

- ・ 冷し中華のタレ・ごまだれ

業務用製品の売上高状況

(単位：千円)



業務用ラーメン 増減要因

【外食用 ↗】

- ・豚骨、味噌、魚介系（海老味噌、はまぐり等）ラーメンスープ、黒マー油

【中食用 ↗】

- ・味噌ラーメンスープ

業務用その他 増減要因

【外食用 ↗】

- ・鍋用スープ（牛テール鍋だし、鰹・昆布系のだし）、牛すじ煮込みのタレ、パスタソース（ボロネーゼ）

【中食用 ↗】

- ・冷担々麺用の辛子ラー油、あんかけ焼きそばのタレ

業務用畜肉・水産 増減要因

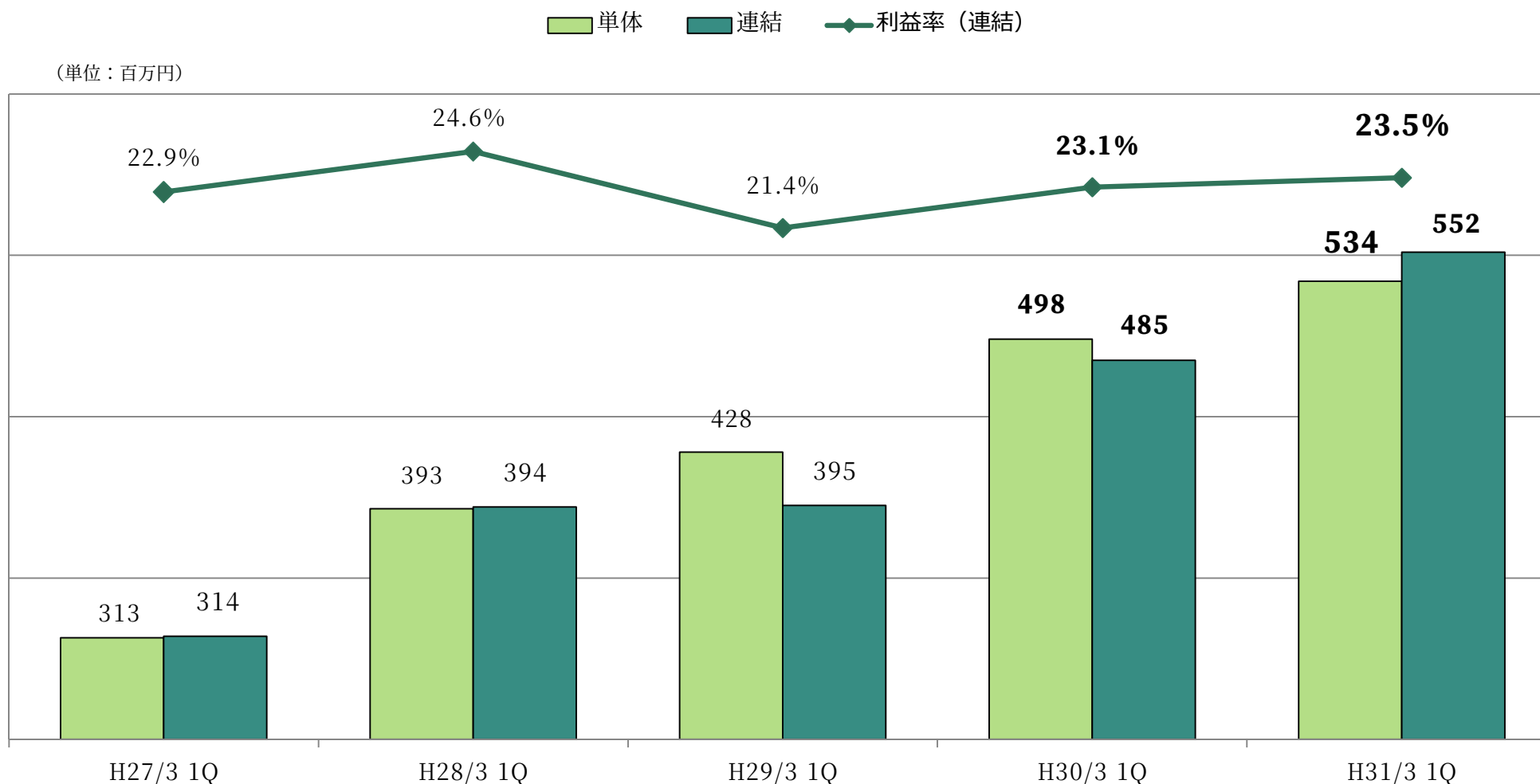
【外食用 ↗】

- ・焼肉、焼き鳥のタレ

【内食用 ↘】

- ・魚卵用調味タレ、魚介系漬けタレ

最新製造設備の導入、生産高増加に伴う工場稼働率の上昇により原価率抑制

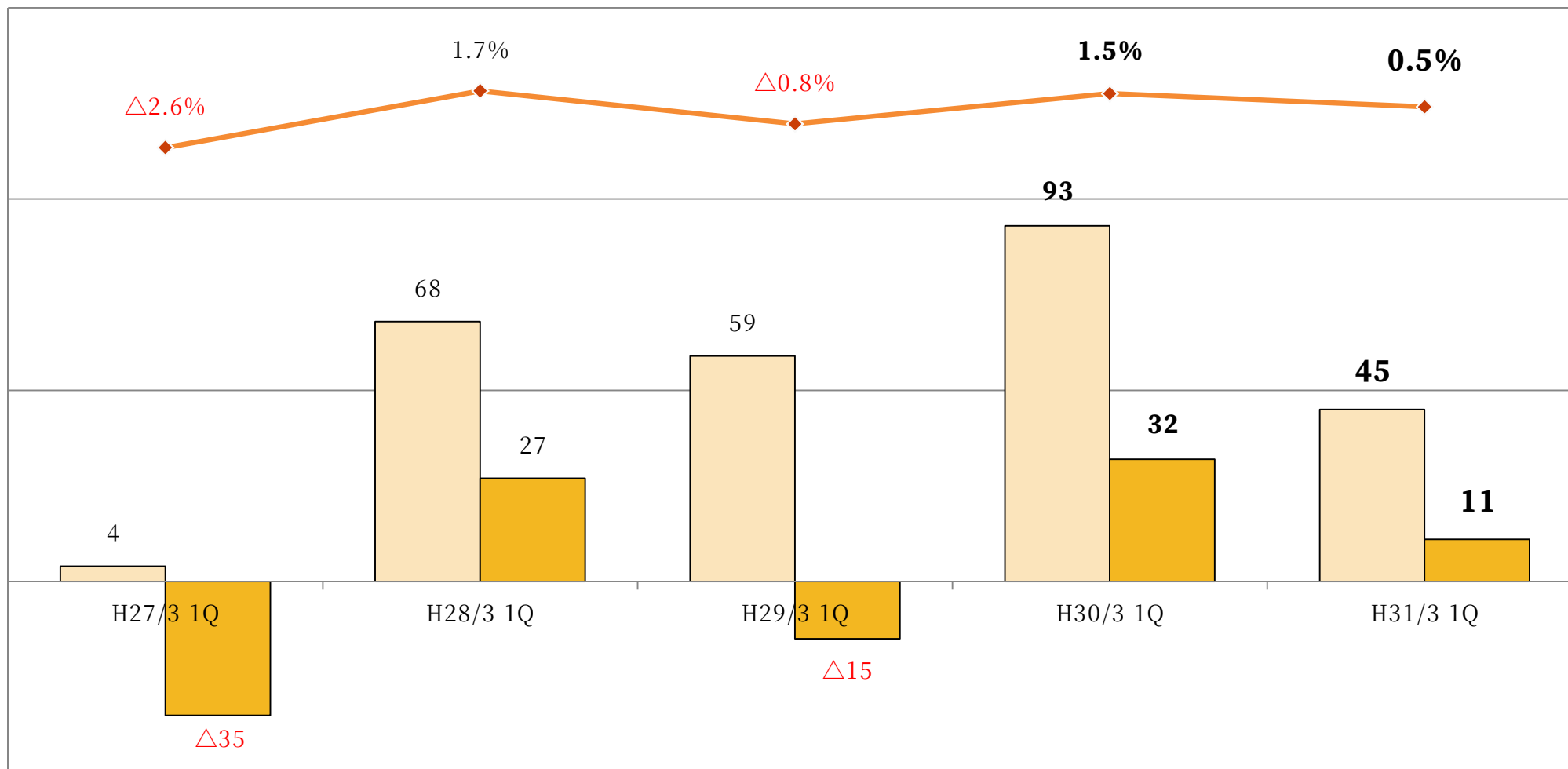


※ 平成28年3月期 第2四半期より米国子会社WAKOU USA INC.が稼働しております。

営業利益推移（単体・連結）

□ 単体 ■ 連結 ◆ 利益率（連結）

（単位：百万円）



※ 平成28年3月期 第2四半期より米国子会社WAKOU USA INC.が稼働しております。

営業利益増減分析

主な増益・減益項目 (単位：千円)	平成30年3月期第1Q		平成31年3月期第1Q		前年同期増減比較	
	金額	売上高比	金額	売上高比	金額	増減率
売上総利益	485,730	23.1%	552,089	23.5%	66,359	13.7%
運送・保管費	126,031	6.0%	144,121	6.1%	18,089	14.4%
人件費	119,175	5.7%	155,944	6.6%	36,768	30.9%
その他販売管理費	208,169	9.9%	240,513	10.2%	32,343	15.5%
営業利益	32,352	1.5%	11,510	0.5%	△20,842	△64.4%

増益要因

売上総利益

： 外食・中食市場向け調味料の販売が好調。売上高246百万円増加
： 最新製造設備の導入、人材育成の強化により利益率が改善

減益要因

運送・保管費

： 売上増加に伴う運送・保管料の増加

人件費

： 拡販活動に伴う増員により人件費が増加

その他販売管理費

： 主に法定福利費、修繕費等が増加

対策

構造改革推進委員会を設置

- ・ 受注・生産体制の見直し
- ・ 運送・保管方法の見直し
- ・ 社内体制の見直し

キャッシュフローの状況

【営業CF】

主な増減要因（前年同期増減比較）

- ・仕入等に係る支出額の減少 +151百万円
- ・その他営業項目による減少 △29百万円

【投資CF】

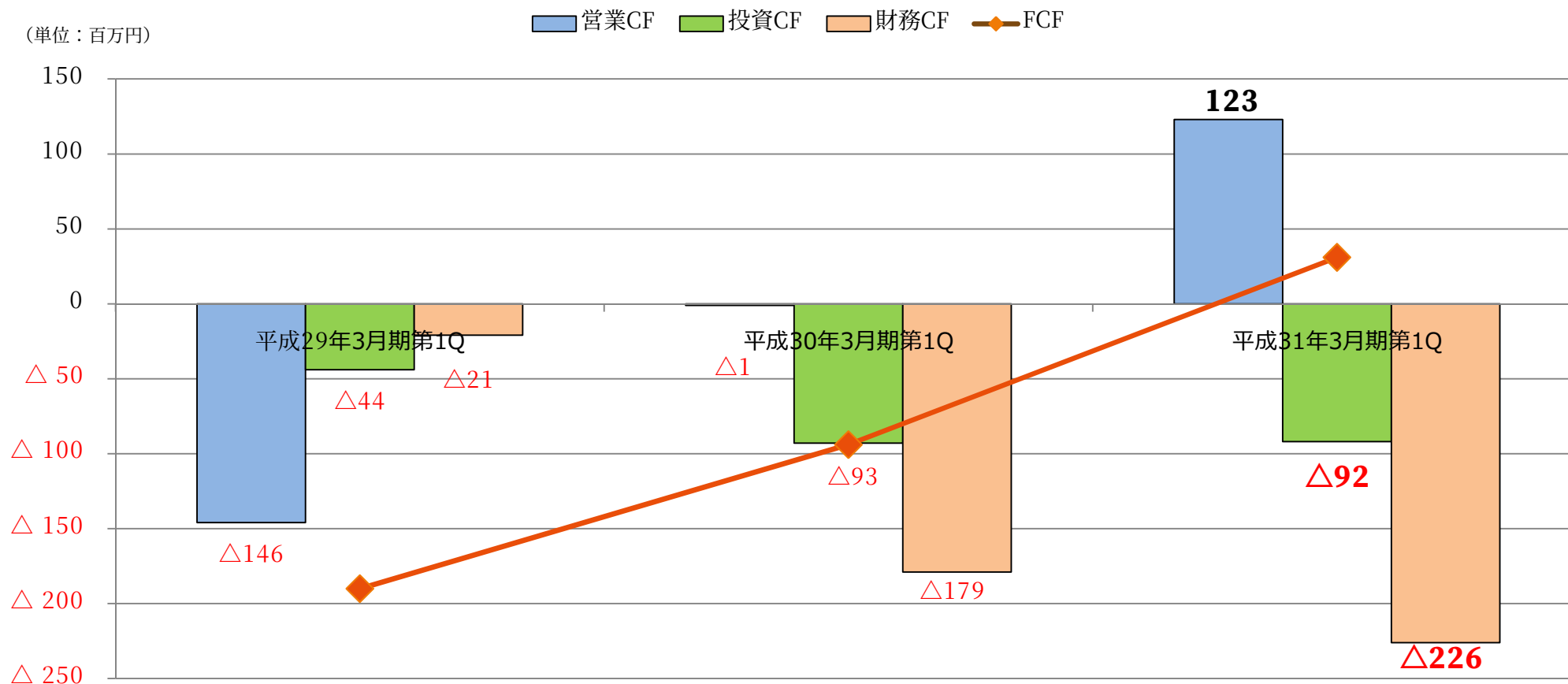
主な増減要因（前年同期増減比較）

- ・有形固定資産の取得 +34百万円
- ・投資有価証券の取得 +10百万円

【財務CF】

主な増減要因（前年同期増減比較）

- ・リース債務の返済額増加 △3百万円
- ・借入金の返済額の増加 △43百万円



(単位：千円)	平成30年3月期第1Q	平成31年3月期第1Q	前年同期増減比較	
	実績	実績	金額	増減率
設備投資額 ※1	80,468	70,794	△9,673	△12.0%
減価償却費	99,127	87,297	△11,830	△11.9%
研究開発費	45,767	44,787	△979	△2.1%
フリーキャッシュフロー ※2	△ 94,581	31,543	126,124	—
有利子負債 ※3	1,458,585	1,804,071	345,486	23.7%
配当金支払額 ※4	40,940 (50円/1株) (効力発生日：平成29年6月22日)	40,935 (50円/1株) (効力発生日：平成30年6月21日)	—	—
ROE ※5	△0.1%	0.2%	—	—

※1 主な設備投資：製造設備の導入 54,749千円
：ソフトウェア導入 7,000千円

※2 フリーキャッシュフローは先行投資により減少傾向が続いてたが売上増加に伴う営業CFの増加により改善が進む

※3 設備投資に向けた資金調達により有利子負債が増加。

※4 配当金支払額については株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。

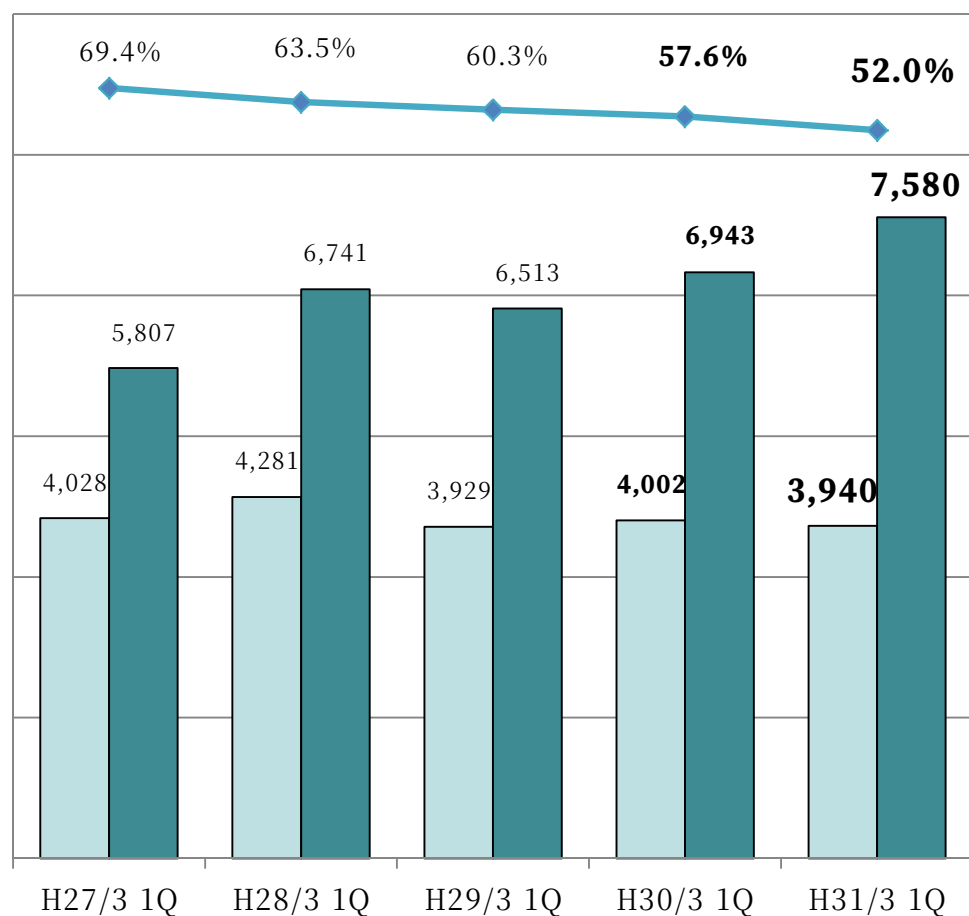
※5 ROEについては株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。

■ 先行投資に係る借入金が増加傾向にあるが、安定した財務基盤を継続しております

自己資本比率の推移

自己資本 総資産 自己資本比率

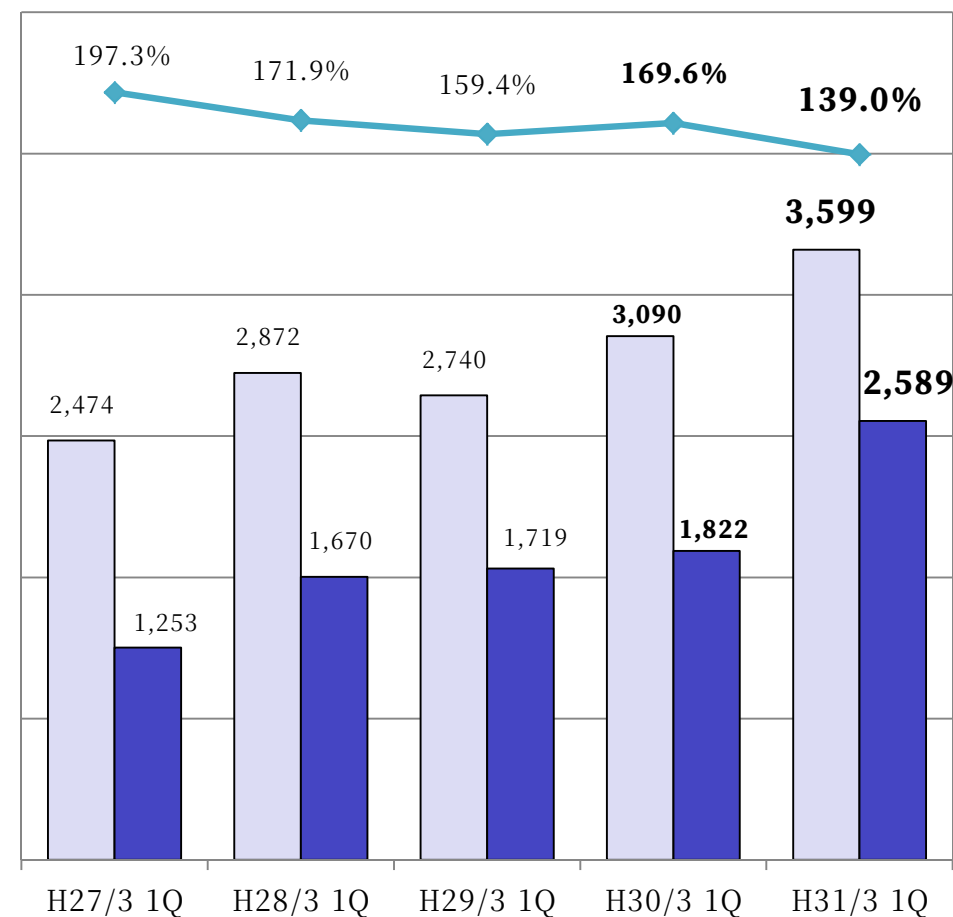
(単位：百万円)



流動比率の推移

流動資産 流動負債 流動比率

(単位：百万円)



1. 平成31年3月期第1四半期連結決算概要
2. 平成31年3月期 業績予想
3. 第1四半期 トピックス（参考）

※ 業績予想に係る在外子会社（WAKOU USA INC.）の換算レートは1ドル=110円で計算しております。

第1四半期を踏まえ、通期業績確保に向けた主な取り組み

プラン①

外食・中食市場の更なる開拓

- ・ PB製品の販売強化
- ・ 各支店に併設されているプライベートキッチンを活用した提案型営業の強化

プラン②

原価低減・生産性向上の強化

- ・ 受注・生産体制の見直し
- ・ 運送・保管方法の見直し
- ・ 社内体制の見直し

プラン③

安心安全の強化

- ・ 原材料の適正化
 - ・ 関東工場においてFSSC22000の認証取得を目指す
- ※北海道工場では平成30年3月に認証取得済み

プラン④

WAKOU USAの販路拡大

- ・ USDA認証製品を活用した差別化戦略
- ・ 非ラーメン市場の開拓、拡販
- ・ 主要都市圏（カリフォルニア州、ニューヨーク州）を中心とする営業範囲の拡大

平成31年3月期連結業績予想

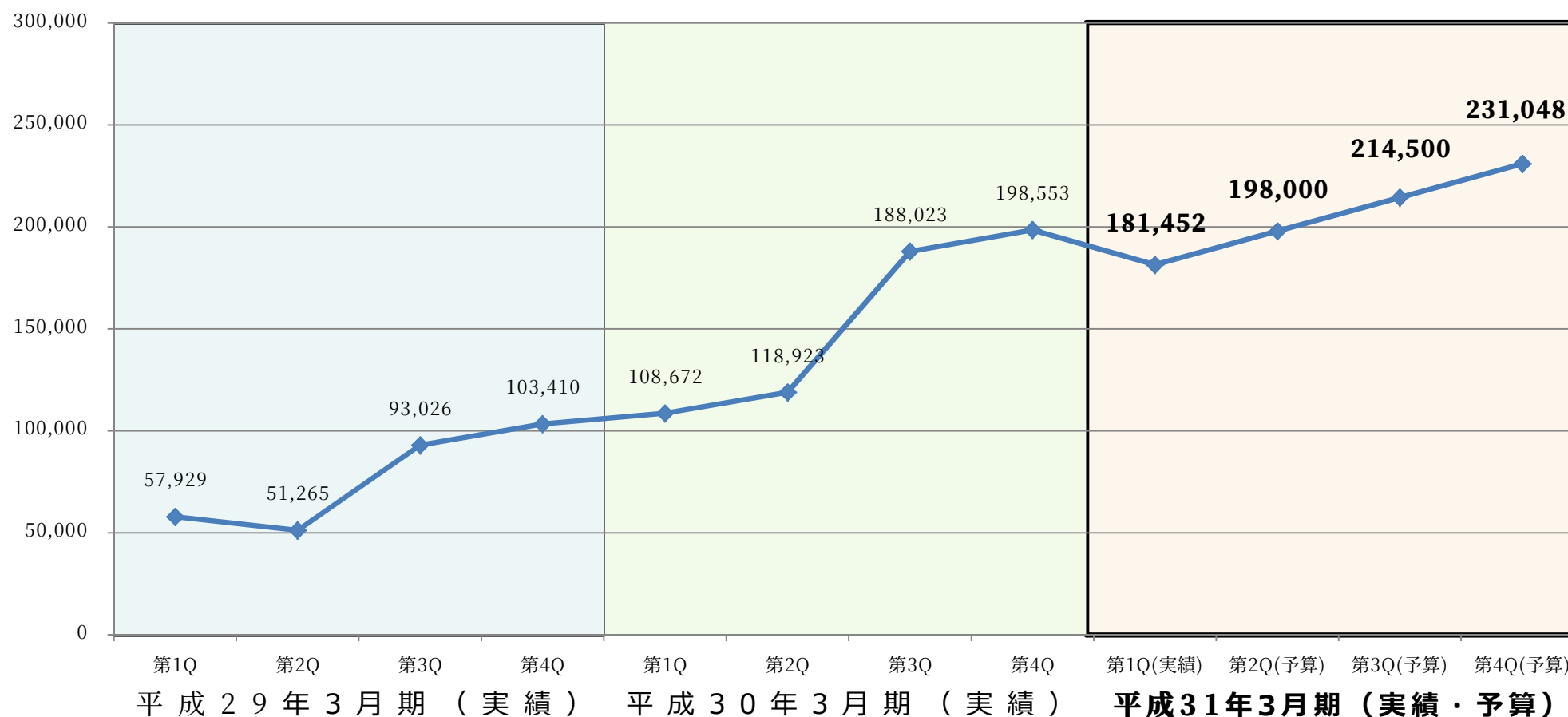
(単位：百万円)	平成31年3月期第1Q		平成31年3月期(予想)		
	実績	進捗率	上期	下期	通期
売上高	2,352	24.4%	4,624	4,999	9,623
売上原価	1,800	23.8%	3,684	3,870	7,555
売上総利益	552	26.7%	939	1,129	2,068
販売管理費	540	27.3%	976	1,005	1,981
営業利益	11	13.3%	△37	123	86
経常利益	33	35.9%	△32	127	94
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6	28.8%	△45	69	24

※ 1株当たり配当については株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。

外部環境

- ・日本からのラーメン専門店の進出が増加しており、ラーメン人口が急激に増加してきている
- ・SUSHI等の日本食レストランでラーメンのサイドメニュー化が加速してきている
- ・食の安心・安全からUSDA認証製品が注目されている

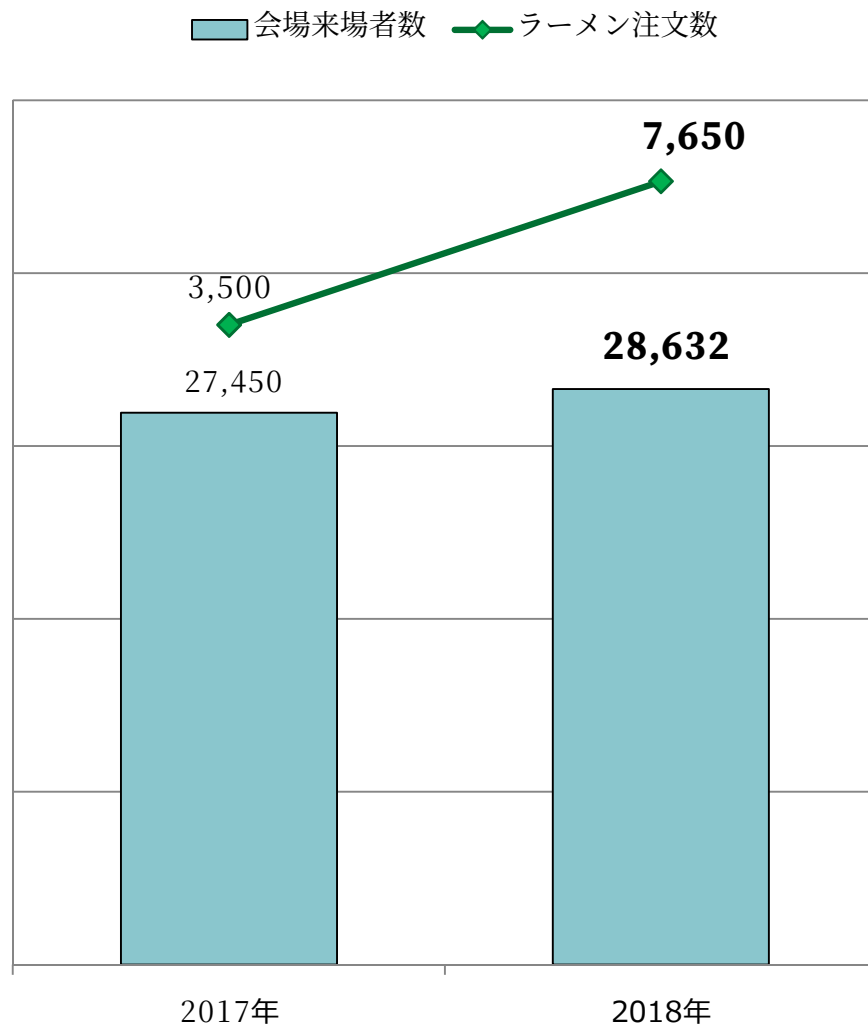
(単位：千円)



1. 平成31年3月期第1四半期連結決算概要
2. 平成31年3月期 業績予想
3. 第1四半期 トピックス（参考）

お客様から大変ご好評を頂いているイベントとなっており、大盛況のうち、無事終了致しました。

※ 平成30年5月15日（火）～5月17日（木） インテック大阪にて開催



和弘食品のブース前の様子



ブースの前で記念撮影

お客様に

すべてのお客様・パートナー企業様の繁栄のために、
誠実なお取引をいたします。

誠実

社員に

和弘食品に働くすべての社員と
その家族および地域の幸せのために、
誠実な会社づくりをいたします。

商品に

和弘食品が開発・提供する
すべての商品に、安心と安全を第一に
誠実な商品作りをいたします。



和弘食品の三つの誠実

◇本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の商品の募集・勧誘・営業等を目的としたものではありません。投資を行う際は、投資家様ご自身の判断と責任で投資なさるようお願い致します。当社の株式のご購入にあたっては各証券会社にお問い合わせください。

◇本資料の内容には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。

◇本資料の内容は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的风险や不確実性などを含んでいることから、その達成や将来の業績を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

本資料に関するお問合せ



IR担当：武田、藁谷

TEL：0134-62-0505

E-mail：IR@wakoushokuhin.co.jp